
はじめに

本書は、東北大学の学生がレポートや論文を作成する時に必要な、文献や情報を調べるための基礎的な知識と技能を習得することを目的に作成しています。

大学での学習は、高校までの勉強とは異なり、主体性や能動性が大切となってきます。大学では自ら問いやテーマを発見し、その課題に対して調査や研究、実験などを行い、確かな論拠に基づいて、客観的で独創的な答えを提示することが求められます。

しかし、はじめからオリジナルな問いや独創的な答えを見出すことは決して容易なことではありません。独自の問題意識や見解にいたるためには、まずこれまで発表された研究論文や記事などを調査し、その内容をしっかりと理解し、咀嚼することが重要です。独創性とは、多くの場合、そのような地道な作業の蓄積のうえに、はじめて成立するものであるといえるでしょう。

また、ノーベル賞の例が端的に示すように、最先端の学問の世界では、誰よりも先に新しい研究成果を発表することが重要となっています。そしてそのためにはまず、自分が研究するテーマに関連する学術的な研究論文などを探し、すでに誰かが研究していないかをしっかり調べる必要があります。また、そもそも新しい研究を始めるには、今までどのような研究がなされてきたかを展望することが不可欠であり、そのためにも学術的な文献や情報を調査する知識と技能の習得が必須となります。

このように文献や情報を適切に調査し、的確に活用できる知識と技能は、授業で課せられるレポートや論文においても、あるいは最前線の研究の世界でも同じように重要なものであり、どの学問分野を志すにせよ学術研究を行ううえでは必須の能力といえるものです。

そして、大学図書館では、学問研究を志す皆さんが、膨大な資料の中から必要とする情報を的確に探し出すことができるように印刷体の辞書・事典・目録のような情報探索ツール（道具）をはじめとして、次のような電子的ツールをも用意しています。

- ・ 図書・雑誌を探し出すためのオンライン目録
- ・ 研究論文を探し出すための文献情報データベース
- ・ 論文や図書そのものを読むための電子ジャーナル・電子ブック

今や、印刷体のツールに加え、これらの電子的ツールを使いこなすことなしには、網羅的な情報探索は不可能となっています。本書では、大学入学以前にあまり利用することのなかったこれらの電子的ツールの具体的利用法を中心に、情報探索の方法を説明しています。本書を通読することで、東北大学の学生として持つべき「文献と情報の探し方」を身に付けることができるでしょう。

この本の目的

